

## 6. コロンビアの日常5：交通網の今昔

天理教コロンビア出張所長  
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

昭和36年(1961)8月に中山正善2代真柱は、コロンビアに「バナナ園開拓」の目的で派遣された天理高校農事部生の若者に会うため、同国南部のツマコを訪問した。その時の映像<sup>(1)</sup>及び記録<sup>(2)</sup>によると、コロンビアのカリ市に空路国際線で到着、そこからはツマコまで国内便で移動。「天理青年」が農業に従事していた「バナナ園」はツマコ市街地よりも50km内陸に位置し、そこには軽便鉄道で到着している。その映像には線路が写っていた。「そのころに、コロンビアの奥地には鉄道があったんだ」と私は驚いてしまった。この時の様子は次のように報告されている。

飛行機の1日遅れで、予定の日時を外したため、出迎える者も居なく、奥地まで行く汽車もなかった。別仕立ての汽車が整うまで、《望海楼》と咄嗟に名つけた水際のホテルで2時間余りを待って、やがて臨時列車が仕立てられ奥地に向かうことになった。夕方、いよいよ天理大学、天理高校出身の青年が待つ農場へ到着した。

だが、現在はツマコの軽便鉄道は存在しない。60数年も前の話である。そこで、今回は自家用の乗り物ではなく、公共の乗り物に焦点を当てたい。

### \*コロンビア国内都市交通の知識

コロンビアの鉄道は1860年頃から普及し、1954年にコロンビア国鉄が発足したが、車時代の到来とともに、1991年に国鉄は解散した。現在は貨物が主流であり、全国で1,500km程度、営業されているという。

コロンビア都市交通の基本はバスである。それは今も昔も変わらない。マイクロバス程度の乗り合いバスが首都のボゴタやカリでは主流だったが、大量輸送の必要性から高速輸送に対応した交通システムの建設が1980年代にはすでに始まっていた。そして、2000年から首都のボゴタ、2007年からカリで「メトロバス」が営業された。この形態のバスは、通常の車両道路にメトロバスの専用レーンと駅を設ける都市交通システムの一つである。

また市内の交通システムでは、日本の地下鉄のような鉄道はコロンビアにはなく、現在、唯一高架線路を使用している「メトロ」と呼ばれる鉄道が存在しているのはコロンビア第二の都市メデリンである。営業開始は1995年からだという。

### \*ラテンアメリカのメトロバス

列車での都市交通が存在するのは、ラテンアメリカ諸国ではアルゼンチン、メキシコ、ブラジル、ベネズエラ、チリ、ペルー、パナマである。

私の記憶によると、1990年頃のカリ市の都市交通はカラフルなバスだった。ほとんどボンネットバスかマイクロバスのような大きさで、当時は、当然ながら、現在(2023)よりも遙かに交通量が少なく、その頃は出張所から市街地(約12km)まで30分前後で到着できた。

停留所はなく、どこでも手を挙げれば止まってきて、そこで乗れる。降りる時もボタンを押し、どこでも降りることができた。

現在は、専用レーンを走り、定まった駅がありその駅のみで乗降するというメトロバスの方式が中南米では盛んに採用されている。コロンビアでも大都市はそのような交通システムが採用されている。私は、エクアドルのグアジャキル、ペルーのリマ、パナマのほか、ブラジルのリオデジャネイロでの「メトロバス」を経験した。どこもSUICAやICOCAのようなICカードを使用して、チャージして使う。

### \*市民の足：タクシー

メトロバスやバス路線とは別にもう一つコロンビアでは大事な公共交通システムが存在する。それはタクシーである。市民は手軽にタクシーを利用する。学生も相乗りしたり、近所の主婦達もスーパーに行ったりするときに使用する。初乗りでいたい1ドルくらいだから日本よりもお手軽なのである。都市部だけでなく、地方都市や田舎でもタクシーはよく使用される。

カリブ海沿岸の観光都市やアマゾン地域では、「トゥクトゥク<sup>(5)</sup>」というタイと呼称が同じオート三輪のタクシーが、観光客の足はもちろん庶民の足にもなっている。

### \*タクシー VS ウーバータクシー VS 白タク

2023年2月22日、タクシー運転手がストライキをして、首都のボゴタやメデジン、カリなどの主要都市で道路を封鎖した。以前からタクシー運転手組合はこの手のストライキを数多く行っている。主たる理由は、政府のタクシー業界への無理解と不公平な対応に対する抗議だ。つまり、燃料ガソリン・LPガスの高騰への反発とアプリで操作



タクシー業界のストライキの様子

できる「ウーバータクシー」系に対する処置に対しての不平等などが原因である。

営業用自動車の旅客輸送には現在三つのタイプがある。普通のタクシーと前述のウーバータクシー、そして最近の問題が「海賊タクシー」いわゆる白タクである。コロンビアではウーバー系タクシーは2009年くらいから出現して、スマホのアプリを使用する。早い話が、「ウーバータクシー」は料金が手軽なのに加えて、操作、呼び出し、前料金、渋滞があっても定額なので人気である。けれどもデメリットも生じる。運転手はプロではないし、安全面でも問題視されている。一方、タクシーでは、料金を算出する「タクシーメーター」を不正に調整している運転手が少なからず存在し、両者の仲違いは続くようである。

白タクはメトロバスの運行する路線や近郊への交通として機能しているが、違法なので「海賊」(Pirata)と呼ばれる。メトロバスは主要幹線での運行は本数も多いのだが、支線になると極端に本数が少なくなる。その支線(つまりは専用レーンがない道路)で白タクは、公共のバスとほぼ同じ料金で、頻繁に通るので待つことなく乗車できる。しかし摘発されると、乗客にも罰金が科せられると聞いた。私も白タクは便利なので利用している。注意しないと…。

[註]

- (1) 天理教道友社編『コロンビアの日々』(映像)天理教道友社、1999年。
- (2) 太田哲三『コロンビアの日々—伝道参考シリーズIX』天理大学おやさと研究所、1998年、22～26頁。
- (3) 久保俊之『伝道史草稿(2)』(未公開の原稿)。
- (4) “ferrocarril en Colombia” Wikipedia. [https://es.wikipedia.org/wiki/Ferrocarril\\_en\\_Colombia](https://es.wikipedia.org/wiki/Ferrocarril_en_Colombia)
- (5) “Tuk Tuk o Tuqui Tuqui, el transporte rápido del Amazonas” 1 Jun 2015 RCN radio. <https://www.rcnradio.com/colombia/tuk-tuk-o-tuqui-tuqui-el-transporte-rapido-del-amazonas-215995>
- (6) “Gremio de taxistas insiste en ir a paro, Gobierno reitera voluntad de diálogo” *El Espectador*. <https://www.elespectador.com/bogota/gremio-de-taxistas-insisten-en-ir-a-paro-gobierno-reitera-voluntad-de-dialogo-noticias-bogota-hoy/>